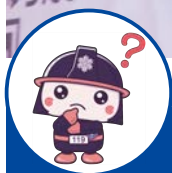


はじめよう予防救急

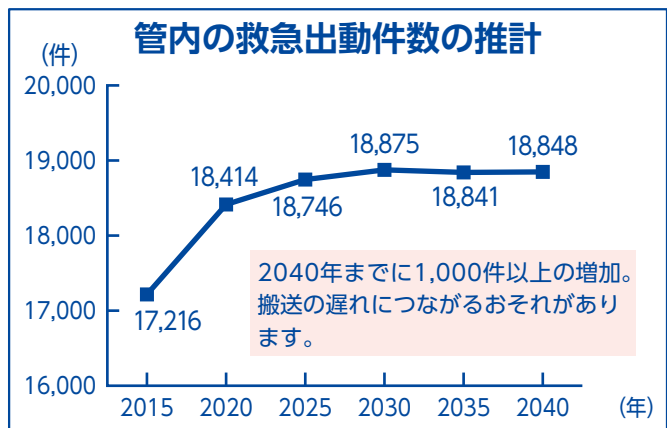
地域のため 大切な人のため



「予防救急」って何？

『予防救急』とは、誰でもできる、身近に潜むけがや病気を予防するための取り組みです。

病气やけがを予防することで、救急出動を減らし、一秒でも早く病院に搬送しなければならない危険な状態にある方のところへ、早く到着できるようにするための取り組みです。



たとえばこんなこと

転倒

誤飲

整理整頓

自宅でのケガで救急搬送されたケースの約60%は、居間や寝室など、普段いる場所で発生しています。身のまわりを整理することで、つまづきや、小さな子どもの誤飲などのリスクを減らすことができます。

感染症

手洗い・うがい

感染症や食中毒のリスクを減らすことができます。

予防救急サポーター養成講習会のお知らせ

○講習内容

救急事例を交えながら、身近に潜むけがや病気につながる危険を知り、予防方法などが短時間(30分)で学べます。さらに、地域やご家族などの身近な人に予防救急を広めて、地域の救急医療に貢献してみませんか？

○受講に関する問い合わせ

受講をご希望の方、詳しい内容を知りたい方は、最寄りの消防署へお問い合わせください。ご希望の日時・場所などを伺い、打合わせをさせていただきます。





健康で充実した夏にしましょう

気温や湿度が高いこの時季は、例年多くの方が熱中症により救急搬送されています。

熱中症は、重症化すると命に関わることもあります。

また、子どもや高齢者は、成人に比べて体温調節が難しいことから発症の危険性が高いため、ご家庭や職場、学校などでの注意や気づきが必要です。

日頃から次のポイントを意識して生活することで熱中症を予防し、健康で充実した夏を過ごしましょう。

予防のポイント



本当にあった熱中症事例 【屋内での発症】

7月下旬、70代の女性が自宅内で家事をしていたところ、動悸やめまいなどの症状により救急搬送され、医療機関で、軽度の熱中症と診断されました。

管内の統計を分析すると、熱中症で救急搬送された60歳以上の方の約8割が屋内で発症しています。

※屋内では、エアコンなどの冷房器具を積極的に利用しましょう。



救急コラム

AEDで「心臓を止める」?

多くの場所で見かけられるようになった「AED」。「救命のために必要なもの」としてご存知の方も多いかと思いますが、知らない方も多い「AED」の果たす役割について紹介します。

心臓の異常な動きを止める

「止まった心臓を動かすもの」と思われている方も多いかと思いますが、本当の役割は「心臓の異常な動きを止める」ことです。異常な動きを止めることで、正常に動き出すことを促すことが、AEDの本当の目的です。

心肺蘇生と組み合わせることが重要

AEDによって心臓の異常な動きを止めただけでは、心臓が正常に動き出す可能性は限りなく低く、胸骨圧迫などの心肺蘇生を行わなければ救命の可能性を最大限まで高めることはできません。

救命には、「早い通報」、「正しい心肺蘇生」と「早いAED」が大切です。

